

# 第31回 木津川上流河川環境研究会

## 議事概要

### 【開催概要】

開催日時： 平成29年8月29日(火曜日) 14:00～16:00

開催場所： メルパルク京都 4階 研修室5(菵)

### 【出席者】

委員： 6名(角座長、海老瀬委員、羽多野委員、藤村委員、堀委員、松井委員)

事務局： 木津川上流河川事務所 8名(山本所長、小寺副所長、北垣調査課長、倉本管理課長、細川工務課長、穴山建設専門官、堀井計画係長、松窪流域調整係)

オブザーバー： 水資源機構関西・吉野川支社 3名(松尾施設管理課長、富安事業課課長補佐)

水資源機構木津川ダム総合管理所 2名(福田副所長、鈴木参事)

水資源機構川上ダム建設所 1名(竹澤環境課長)

### 【議事次第】

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

#### 3. 議事

##### (1) 木津川上流河川環境研究会について

- ・ 前回 第30回研究会等指摘対応の確認

##### (2) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

- ・ 本年度検討方針

##### (3) 堰・魚道 連続性再生検討

- ・ 縦断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報
- ・ 横断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報

##### (4) 河道内樹林管理検討

- ・ これまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報

##### (5) 水量・水質検討

- ・ これまでの検討結果と本年度検討方針

##### (6) その他

- ・ 今後の予定

#### 4. 閉会

## 【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料1 : 第30回木津川上流河川環境研究会 指摘対応
- ◆資料2 : 河川工事実施に係る環境保全への助言について
- ◆資料3-1 : 木津川上流 縦断連続性再生 堰・魚道 簡易改良等 検討資料
- ◆資料3-2 : 上野遊水地 横断連続性再生検討 資料
- ◆資料4 : 河道内樹林管理検討 資料
- ◆資料5 : 水量・水質検討 資料

## 【審議内容】

### (1) 木津川上流河川環境研究会について

事務局より、木津川上流河川環境研究会における検討経緯、および前回研究会（第30回）及び各ワーキンググループにおける指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。

### (2) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

事務局より、河川工事実施に係る環境保全への助言について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・次回以降の資料では、掘削土量等の工事の規模がわかる数量を記載するとよい。〈角座長〉
- ・河道掘削工事において、掘削後に表土を撒き戻す際に、タケ類の根茎が入っている場合の戻した方について留意すべきである。ワーキングで議論を行い、検討成果に反映していただきたい。〈角座長〉
- ・タコノアシが広くみられる減勢池はどのような環境となっているか 〈角座長〉  
⇒減勢池の底はコンクリート構造であるが、堆砂した立地にタコノアシが多数生育している。本来の機能としては堆砂してほしくない場所である。（事務局）

### (3) 堰・魚道 連続性再生検討について

#### 1) 縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、縦断連続性再生検討に関するこれまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・今年、河川レンジャーの谷口先生が、相楽、大河原で活動されているが、それについて補足してほしい。〈角座長〉  
⇒谷口先生については、相楽発電所取水井堰周辺で多くのアユが滞留しているため、左岸側から簡易改良により遡上させられないかということで、淀川河川事務所を含めて提案いただいている。（事務局）  
⇒木津川から下るアユや、高山ダムから流下するアユもいるようであるので、相楽・大河原の連続性改善の価値について考えていきたい。また、将来的にどこまで遡上させていくことが最終的なゴールなのかということについても、各管理者や地域との連携や還元についても考えてほしい。〈角座長〉  
⇒住民にどのような形を目標としているかを説明していく必要があると考えている。（事務局）
- ・キトラ井堰の環境学習会は、なぜ夏休み期間に実施しなかったのか。〈羽多野 委員〉  
⇒地元調整や、他イベントとの重複もあったためである。（事務局）

## 2) 横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、横断連続性再生検討に関するこれまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・タウナギの表記が（本土産）となっているのはなぜか〈松井委員〉

⇒河川水辺の国勢調査の種リストに準拠しているためである。（事務局）

・排水路と水田の水田魚道による連続性は、水田への水の入れ方と関係してくる。水田管理者は、必要な水深を確保し、その後はできるだけ水の出入りを止めたいため、その場合は水田魚道に常時通水する状況はつくりにくい。水の管理について、水田管理者との対話、見通しはどのようになっているか〈堀 委員〉

⇒現時点では、まだ水田管理者との調整は行っていない。降雨時の一時的な通水でも遡上する個体も多いと考えている。現在は、水田魚道の実証実験の段階であり、設置については、今後協議を進めていきたいと考えている。（事務局）

⇒地域住民に水田の管理への理解を求めるとともに、水の管理や中干し時の対応等も含め、水田管理者との調整を進めてほしい。〈松井委員〉

・上野遊水地の水管理について、水田管理者と行政はどのような情報交換を行っているのか。〈角座長〉

⇒地元との意見交換を随時実施しているが、水田魚道の設置については、具体的な話は行っていない。（事務局）

・横断連続性の改善や保全のシンボルとなる目標のようなものはないか。前回はナマズの話があったが。〈角座長〉

⇒具体的な話は進んでいない。（事務局）

⇒森委員が専門なので、よく意見を聞いておくことが重要である。〈松井委員〉

## (4) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理検討に関するこれまでの検討結果と本年度調査・検討方針、調査結果速報について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

・本年度対象となる伐採箇所はどのように選定したのか。〈角座長〉

⇒河川管理上課題になっている箇所を選定しており、これまでの試験伐採による手法を検証する位置づけである。（事務局）

・伐採手法を広げると議論が発散してしまうので、これまであがっている手法をもとにまとめることを考慮し検討を進めたほうが良いのではないか。〈藤村委員〉

⇒除根手法を考慮することで、より効果が得られないかを考えており、コストとのバランスを含めどれぐらいの労力をかけるのがよいか検討を進めたい。また、施工業者が現実的に実施可能な手法であるかについても現地で確認していきたい。手法はこれまでの検討で出尽くしており、今後はそれをベースに掘り下げて検討していく。（事務局）

・伐採後に湿潤状態だと運搬や処理コストがかかるため、定量化を行っていくことが必要である。〈藤村委員〉

・樹木伐採は、伐採コストをかければ再繁茂は抑制でき、伐採コストと再繁茂はトレードオフの関係にある。その中で、よりよい工夫はないかを今年の名張川と宇陀川で検証するという位置づけと理解した。〈羽多野委員〉

## (5) 河川ダム 水量・水質検討について

事務局より、水量・水質検討に関するこれまでの検討結果と本年度検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・発生汚濁負荷量については、最新の統計値を用いて継続的にチェックし監視しておくこと。
- ・また、笹瀬橋と高山ダム下流地点が木津川本川と名張川の流末にあたるが、COD、BODの流達負荷量（実測負荷量）を常にチェックしておき、自治体との意見交換の際にはそれを提示して原因を考えながら現実の流出負荷量との関係性を説明するのが有効である。（海老瀬委員）

⇒発生汚濁負荷量は通常通り最新の統計値から算出を続ける。また、実測負荷量は、各河川で流量観測データがあるので、これをもとに算出する。（事務局）

## (6) その他

その他として、今年度の工事箇所現地視察、ワーキング、研究会の開催予定について、事務局より説明を行った。その他の意見は以下の通りであった。

- ・現在まで、各ワーキング、研究会を行い、成果がみられるところや今後も継続した検討が必要などところがある。今後に向けて、各ワーキングのミッションをさらにもう一度全体に連携させる仕組みがあってもよいのではないか。（角座長）
- ・川上ダムも工事のステージに入り、長寿命化対策として土砂を下流に還元していくという議論が再開している。特に、今後5年くらいを目安に木津川上流での環境変化が想定されるため、これらのシナリオと全体像をいま一度整理するとよい。これからの5年、10年、特に5年くらい、川上ダムが完成して運用が始まるくらいまでのステージを考えて、これまで蓄積されてきた知見など、本研究会がどういう形で貢献していくのかを、考えてきていただけるとありがたい。各ワーキングで議論することにより、課題がみえてくるかもしれないので、やりとりをしながら進めていただきたい。（角座長）

以 上